

座席配置、用途に合わせ

コロナ感染防止キットも発売

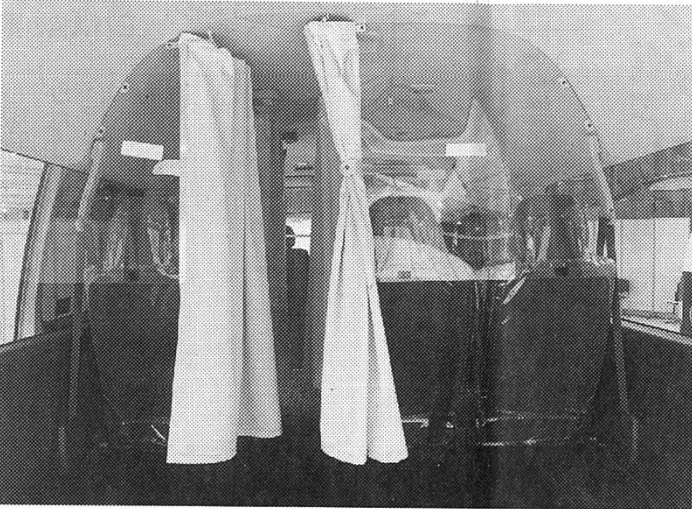
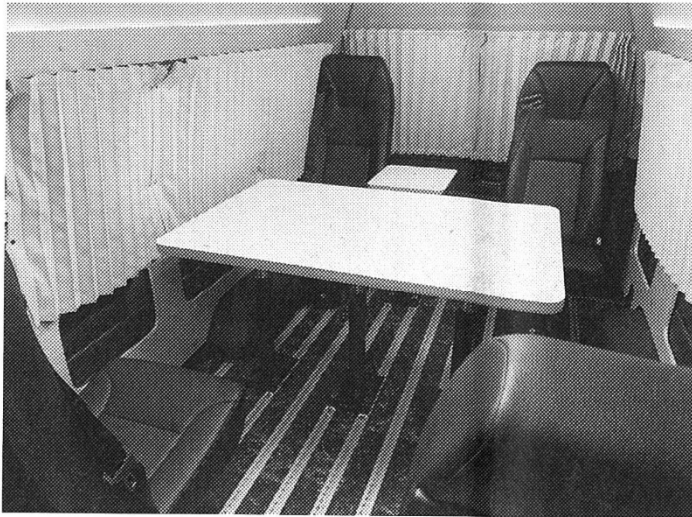
モネ M a a S 向け車両受注開始

感染防止車両
の外観



トヨタ自動車とソフトバンクの共同出資会社「MONET Technology」と、新型コロナウイルスの感染防止設備を施す「Pargies」（モネ・テクノロジーズ、東京・千代田区、宮川潤一社長）は、Maas（マース、移動サービス）の受注を8月末に開始した。一般の企業や自治体は、対象で、今年度中にそれぞれ100台分の販売を目指す。ベース車はトヨタの「ハイエースグランドキャビン」（10人乗り）。

マルチタスク車両で特徴的なのは、後部座席の床に13本のレールが敷かれ、その上に座席を固定する手法だ。工具を使わずに好きな位置に自由に配置できる。オンデマンドバスのほか、事務所や物販、行政サービスなどでの使用を想定している。企業からは、面接会場や工事現場の休憩所としての利用案が出ている。オ



④床に13本のレールが平行に敷き詰められている。テーブルと4席を配した様子（7月、東京・品川）⑤座席を5ブロックに分け、透明プラスチックの壁とカーテンで覆う

感染防止キットでは、前席と後席の間に透明プラスチックの壁を設けた上で、後席を1～2席の5ブロックに分け、同様の隔壁とカーテンで仕切る。乗車席と他の空間に気圧の差を、外気が各席を通って後方から排出される独自の強制換気システムを採用する。乗客の体温を測定する非接触式測定器を配備する。通院や通勤、送迎の利用を想定。税込み78万1000円から。9月下旬に納車開始する。